



愛知県立
江南高校

進学実績向上

◎校訓は「学び はげみ 学べ」。真理と正義を愛し、知性と教養を備え、気力・体力の充実した人材の育成を目指す。例年100人以上が国公立大に合格。部活動も活発で、テニス部や陸上部、水泳部、吹奏楽部などが県大会の常連。

設立	1980(昭和55)年
形態	全日制/普通科/共学
生徒数	約1040人
2015年度入試合格実績(現浪計)	国公立大は、富山大、金沢大、岐阜大、愛知教育大、名古屋大、名古屋工業大、三重大、愛知県立大、名古屋市立大などに166人が合格。私立大は、中央大、東京理科大、法政大、明治大、南山大、名城大、同志社大、立命館大、関西学院大などに延べ1178人が合格。
住所	〒483-8177 愛知県江南市北野町川石25-2
電話	0587-56-3511
Web Site	http://www.konan-h.aichi-c.ed.jp/

基礎学力の定着と 学習意欲の向上を図り、 過去最高の進学実績に

変革のステップ

背景

◎15年程前から進学実績が低迷し、生活指導の課題も顕在化。進学校としてのアイデンティティーを取り戻すべく改革に着手

STEP 1

実践

◎学校の活性化に向け、部活動に注力。週末課題や土曜教室で基礎・基本の定着、学習計画やスタディーサポートの活用で学習意欲の向上を図る

STEP 2

成果

◎生徒と教師の距離が近くなり、学校に活気が戻る。進学実績が上昇し、2013年度入試からは3年連続で最高記録を更新

STEP 3

部活動の活気が薄れ 進学実績も低迷

愛知県立江南高校は、地域を代表する進学校であり、創立当初の教師の熱意と地域の大きな支援により、順調に進学実績を伸ばしてきた。ところが、15年程前から、生徒の学習意欲や進路意識に陰りが見え始め、進学実績が低迷していった。厳しかった生徒指導も徐々に手薄になっていき、一部の生徒の生活規律が緩みがちになった。それに対して、地域から厳しい評価を下されることもあったという。

進学校として危機感を抱いた教師たちは、ここからの江南高校のあるべき姿を話し合った。様々な議論から浮かび上がってきたのは、学習時間の不足、部活動の停滞という課題だった。教諭時代から計17年、同校に勤務する三好博輝(ひろき)教頭は、次のように述べる。

「当時、多くの進学校が授業時間を増やす中で、本校は30単位を維持していましたが、進学校にふさわしい指導体制を整えるためには、単位の増加は避けて通れない状況でした。その頃は、学習だけでなく部活動の活気も薄れ、明確な目的意識がなく、活動意欲の低い生徒が目立ちました。部活動の加入率は100%であっても、真面目に取り組んでいる生徒は半数以下という部もありました」
生徒の活気を取り戻し、学校の求心力を高め

ることが、喫緊の課題となっていた。

週末課題とテストを連動させ 生徒のモチベーションを高める

2006年度、同校は年間修得単位数を32単
位に引き上げ、授業時間を50分から65分に増や
した。50分授業のままでは単位数を増やせば、週
2日、コマ数が増えてしまう。終業を毎日同じ
時間とし、部活動に取り組みやすいようにした。
部活動に活気を呼び戻すには、何より参加率



愛知県立江南高校教頭
三好博輝 みよし・ひろき
教職歴31年。同校に赴任して5年目。「継続は力
志を立て耐えて励めば、夢は必ず実現する」



愛知県立江南高校
近藤哲也 こんどう・てつや
教職歴27年。同校に赴任して7年目。進路指導
主事。「生徒一人ひとりを大切に指導を心掛
ける」



愛知県立江南高校
松永和宣 まつなが・かずのり
教職歴35年。同校に赴任して10年目。進路指導課
「掛けた手間ひまが教育の質を決める」



愛知県立江南高校
佐々木敏也 ささき・としや
教職歴4年。同校に赴任して5年目。進路指導課。
「生徒の失敗は教師の責任。生徒の成功は生徒の
努力」

を高めなければならない。顧問は積極的に生徒
に声を掛け、校務の合間にグラウンドや体育館
に足を運び、指導した。部活動活性化の牽引役
となった部の1つが、今や県大会の常連となっ
た吹奏楽部だ。生徒指導を徹底させ、生徒の生
活規律を整えていった。

当初は「なぜ吹奏楽部の生徒だけ、制服のジ
ヤケットのボタンをきちんと留めなければいけ
ないのか」と不満を漏らす生徒もいたが、粘り
強い指導の末、1年程で顧問の方針は浸透し、
演奏レベルも格段に向上した。それに引張ら
れて、他の部にも厳格な生徒指導が浸透してい
ったという。14年度まで進路指導主事を務めた
松永和宣先生は次のように述べる。

「どの部でも顧問が積極的に生徒とかわ
るようになったのが大きかったのではないかと
思います。熱心に取り組めば成績も上がり、
結果が出れば生徒はもっと楽しくなる。『吹奏
楽部に入りたい』『サッカーをしたい』などの
理由から入学を希望する生徒も増えました。
目的意識が明確にあるため活動意欲が高く、
そうした姿勢が学習にも波及していきました」
学習指導で力を入れたのは、基礎・基本の定着
だ。週末課題の充実を図り、定期考査はその集大
成として位置付け、生徒の学習意欲を高めた。
同校の伝統的な取り組みに、「英Eテスト」
と「数Zテスト」がある。当該学期に取り組ん
だ課題や問題集から出題されるテストで、英E

テストは毎回定期考査の2週間前、数Zテスト
は考査期間中に、正規の科目と別に実施する。
基礎学力の定着の確認、課題への取り組みを評
価するために設けられたが、改革前は、課題未
提出者が多かったり、生徒がテスト直前になっ
てから対策を始めたたりと、十分機能していなか
った。そこで、未提出者への指導を強化すると
同時に、両テストでは週末課題と関連した内容
を出題することにした。

「テストの出題範囲が広く、直前の暗記だ
けでは対応できないため、生徒は地道に週末
課題に取り組みざるを得ません。週末課題に
しっかり取り組みれば、英E・数Zテストで好
成績が取れるという流れをつくり、学習意欲
を高めたいと考えたのです」(松永先生)

4コマの「土曜教室」を必須化し 補習や発展的な演習に充てる

任意参加だった1・2年生の「土曜教室」を、
原則全員参加とする方針を打ち出したのもこの
頃だ。40分×4コマで、1コマを自習とし、残
り3コマで5教科のいずれかの補習を行う。そ
の週の授業の復習や反復練習的な内容を中心と
し、基礎・基本の定着を狙いとした。

3年生の土曜教室は、90分×4コマの講座制
だ(12月まで)。入試で必要となる内容の講座
を5教科で開設し、生徒が自由に講座を選択す

3年生「第19回 土曜教室」の講座内容

講座内容 (各コマでどれか1つを選択)	
第1限	①英語標準 (長文・文法・英作) ②英語発展 (長文・文法・英作) ③英語難関 (長文・英作) ④物理 (基本～標準)
第2限	⑤センター演習数学ⅡB ⑥世界史論述講座5 ⑦日本史 (大正・昭和前期の内閣の変遷) ⑧理系数学演習応用 (数学Ⅲまで) ⑨理系生物演習 (ハーディー・ワインベルグ・分子進化・分類)
第3限	⑩倫理マーク演習 ⑪理系数学演習 (数学ⅠA・ⅡB) ⑫文系生物基礎センター演習 ⑬化学センター演習 ⑭国語センタープレ過去問演習 (現代文)
第4限	⑮文系数学記述 (国公立大二次・私立大) ⑯政治経済マーク演習 ⑰理系化学記述演習 (基礎) ⑱国語センタープレ過去問演習 (古典)
資料配布のみ ⑲英語語彙・語法問題演習 ⑳物理記述演習	

3年生 11月の第19回の土曜教室の講座内容。生徒はこの中から自分に必要な講座を選んで履修する。
*学校資料から一部抜粋して編集部で作成

る。講座数は毎週15コマ程度(図)。参加は希望制で、人数に応じて教室を割り振る。「英語標準」などの基礎・基本の定着を図る講座に加えて、「世界史論述講座」「倫理マーク演習」など、普段の授業ではなかなか指導できない応用的な内容も行った。進路指導主事で世界史担当の近藤哲也先生はこう述べる。「授業は知識の習得が中心になるので、論述の練習は土曜教室で行います。以前は、入試で論述対策が必要となる生徒が1、2人程度だったので、個人添削で指導していました。今は、難易度の高い大学を志望する生徒が増え、論述対策が必要な生徒が多くなったため、講座制にしています。授業ではアウトプット

する機会が少ないので、生徒たちは講座で意欲的に論述対策に取り組んでいます」

土曜教室は教師の負担が大きいですが、生徒の意欲の高さに背中を押されていると、数学科の佐々木敏也先生は指摘する。

「先生方は、講座の内容はもちろん、どの時間にすれば、生徒が受講しやすいかまで考えて時間割の申請をしてくれています。生徒は次の講座を楽しみにしており、教師も『次は名古屋大志望者向けの講座にしよう』など、新しいアイデアを提案してくれます」

スタディーサポートを3月に実施し 春休みに弱点克服を促す

同校は、生徒の自律的な学びを促すため、学習意識の向上にも力を注いできた。その1つが「学習記録」の活用だ。06年度にそれまでの様式を一部変更し、取り組みを推進した。生徒は、毎朝、前日に家庭で学習した教科と時間数、起床・食事・就寝の時刻、コメントを記入して提出。担任は、全ての記録に目を通す。アドバイスや励ましの言葉を書いて生徒に返す教師もいる。

「学習時間だけでなく生活のリズムも分かるのが、学習記録の利点です。教師と生徒との交換日記のように活用する担任もいます。この記録を読むと、生徒の変化もすぐにつかめるので、『最近、学習時間が少ないね。何か

悩み事でもあるの』というように、こまめに声を掛ける教師が増えました」(佐々木先生)

スタディーサポートや進研模試を生徒の学習意欲の向上につなげているのも、同校の特徴だ。

同校では、毎年、全学年でスタディーサポートを実施している。2・3年生は1年間の学習の振り返りとして位置付け、3月上旬に受験し、終業式に結果を返却。生徒に自身の強みと弱みを把握させ、未定着の部分は付属の問題集で春休み中に復習するよう指導する。スタディーサポートの問題集を春休みの課題にする教科・学年もある。1年生は入学直後に実施し、担任の生徒把握に活用する。特に入学後最初の面談で、ゴールデンウィークや中間考査に向けたアドバイスをする上で有効な資料になるという。

3年生では進研模試の直後、生徒の自己採点結果を基に、進路指導課が独自に度数分布表を作成して「進路通信」で公表する。そこには、各教科の講評、今後の対策も掲載。意識の高い生徒は配布と同時に熱心に目を通すという。

「早く結果を知りたいという生徒の要望に応えたいという思いもありますが、何よりも重視しているのは、学習のどこに課題があり、今後何をすべきかを具体的に示して、次の模試への意識を高めることです。進路通信を手掛かりに課題を見つけ、早めに行動を起こす生徒が1人でも増えることを期待しています」(松永先生)

進路室を職員室に隣接させ、生徒と教師の距離を縮める

同校の一連の取り組みに共通するのは、生徒と教師の距離の近さだ。手厚い指導が教師に対する生徒の信頼を育み、一つひとつの取り組みに実効性をもたらしている。

進路室を職員室の隣にしたのも、この関係性を設備面で保証するためだ。また、大学案内や過去問題集、入試関連の資料を充実させると共に、机と椅子を設置して資料の閲覧や面談、話し合いが出来る多目的スペースも、進路室に確保した。職員室から進路室にかけての廊下には、長机を設置して自習スペースとし、気軽に教師に質問が出来る雰囲気づくりも整えた。

更に、職員室の入り口付近に課題提出用の棚を設置し、定期考査前の生徒の入室禁止期間中でも、生徒が棚の所まで入って、教師に声を掛けられるようにした。定期考査の時期こそ、生徒は教師に質問したいと考えたからだ。

「生徒と教師がコミュニケーションを取りやすく、両者の距離が更に近くなりました。進路室や職員室の近くで自習をする生徒や、質問に答える教師の姿がよく見られることで、学校全体に学習意識や進路意識の高揚がもたらされているのを感じます。また、進路室が移動したことで、進路主任が職員室に長くいることができ、学年団の思いや要望を

日々感じられるようになりました」(松永先生)
進路指導課と学年団との一体感を醸成する契機にもなったのである。

若手教師の増加に伴い 授業の質の向上が新たな課題に

同校の進路実績は、09年度に初めて国公立大合格者が100人を超えて以降、右肩上がりだ。地道な改革が実を結び、13年度入試からは3年連続で最高記録を更新し、15年度は160人が現役で国公立大に合格した。

そのように創立初期の実績をしのぐ躍進を果たした同校だが、慢心はない。

「大学入試も大きく変わろうとしている今、学校のチームワークを更に高めていかなければなりません。取り組みの効果や質を精査し、教師に過大な負担が掛からないような方法を考えたいと思います」(近藤先生)
三好教頭は、授業改革に向けた取り組みについても検討を進めていると話す。

「補習や課題などを課すことに取り組んできましたが、学校教育の中心は何と言っても授業です。若手教師が急速に増える中、授業の質をいかに高めていくかが、今後の課題です。生徒の力を最大限に引き出せるよう、互見授業や授業公開、研究授業など、研修機能も充実させたいと考えています」(三好教頭)

情熱 若手教師が語る、指導変革への

模試分析や資料作りから 進路指導のスキルを磨く

進路指導課・3学年担任 佐々木敏也

私が新任として着任後の5年間は、本校の改革の芽が出始め、進学実績が上昇していく時期と重なります。当時と今とは、生徒の服装や学ぶ姿勢、先生方のかかわり方など、あらゆる面が変わりました。微力ながら、新たな歴史を刻む改革にかかわり、生徒や学校の変化を間近で見てきたことは、私にとって大きな学びとなりました。

進路指導課の業務からは、進路指導のノウハウを蓄積できました。進路通信の作成で、模試の結果から度数分布を出したり正答率を調べたりと、データの分析や活用法を学び、2年目からは進路検討会の資料作りにも携わり、大学・学部の特徴や難易度に関する知識を得ました。今年度、3学年の理系クラスの担任となりましたが、面談で生徒の視野を広げるようなアドバイスが出来たのは、進路指導課での経験のおかげです。

1年生から持ち上がり、担任としての1回目が終わろうとしています。自分の指導を振り返ると、1・2年生の時にしておけばよかったと思うことがたくさんあります。入学時から3年後を見通した指導を意識しなければならぬと痛感しています。

本校の生徒は素直で真面目ですが、自分にあまり自信が持てていないようです。「出来るんだから頑張れ」と励まして、高い志望を持てる生徒は多くありません。様々な活動を通して成功体験をさせ、生徒の自己肯定感を高めていくことも、今後の課題です。